

2021年度 第1回 現代文化人類学会（旧早稲田文化人類学会）定例研究会

発表者：藤井真一（国立民族学博物館外来研究員）

日時：2021年4月26日（月）18時15分～20時30分

場所：Zoomによるオンライン開催

*どなたでもご参加いただけます。ただし、オンライン開催のため、事前申込が必要です。

4月23日（金）までに下記のGoogleフォームを通じて申し込みください。4月24日以降、参加申込をされた方のみに、ZoomのURLをお送りします。

<https://forms.gle/a4uPmkyLsZeTxV5v5>

タイトル：

平和の生成をめぐる通時的・共時的分析——紛争に照準化しつつ周辺視野に映り込む日常へ目を向けること

要旨：

本報告では、ソロモン諸島で生じた「民族紛争」を取り上げつつ、平和と紛争との動態的関係を明らかにすることを試みる。

まず、「平和の人類学」と呼ばれる研究群の展開を述べ、その到達点と課題を示す。次に、20世紀末にソロモン諸島で生じた「民族紛争」の概略を示す。その上で、（1）「民族紛争」を解決するにあたって草の根レベル・国家レベル・二国間レベル・国際レベルで行なわれた多様な紛争処理の試みと、（2）私の調査地であるガダルカナル島北東部の人びとが紛争へとどのように関わり、紛争渦中でどのような日常生活を組み立てていたのかを臨地調査に基づいて紹介する。最後に、通時的分析と共時的分析という二軸を採って考察することが、「民族紛争」の包括的理解のみならず平和と紛争との間の動態的関係を解明することができるアプローチとなることを示す。

お問い合わせ：

現代文化人類学会定例研究会ワーキンググループ

箕曲在弘

minoo [a] waseda.jp

* [a]を@に変えて送信してください。